

今、あなたにお願いしたいことがあります。

参加のスタイル

[支援方法]

1

マンスリー会員になってください。[金銭的支援=ご寄付]

マンスリー会員とは、月々、一定額のご寄付をいただき、
金銭的な支援でご参加いただく方法です。

1日100円、ペットボトル1本分で、
難病と闘っている子どもとその家族の笑顔をつくることができます。

*マンスリー会員は、HPからお申し込みいただけます。

*随時、単発のご寄付の場合は、下記の振込先をお願い致します。

■振込先■

ゆうちょ銀行 口座番号 00130-4-632957
(名義) 一般社団法人 難病の子どもとその家族へ夢を

三菱東京UFJ銀行 新富町支店 口座番号 (普)0030226
(名義) 一般社団法人 難病の子どもとその家族へ夢を

2

ディズニーランドのチケットを譲ってください。[運営的支援]

難病の子どもたちに聞いてみると、

約半数の子どもたちが“家族でディズニーランドに行きたい”と言います。
いつもの病室ではなく、大きな青空の下で思いっきり家族全員で、非日常の世界へ。

そのような願いを是非、あなたの力で叶えてあげてください。

*下記の住所にお送りください。

■ お申し込み・お問い合わせ ■

ホームページでは、最新の活動内容を紹介しています。ぜひご覧ください。

<http://www.yumewo.org/>

難病の子どもとその家族へ夢を

検索



社団法人
難病の子どもとその家族へ夢を

〒135-0064 東京都江東区青海2-7-4 theSOHO 826

TEL:03-6457-1480 | FAX:03-6457-1481 | E-mail:info@yumewo.org |

今、この日本では、20万人以上の

子どもが毎日、難病と闘っています。

そんな毎日の中では想像できなかった

家族旅行やドキドキ・ワクワクする体験を、

家族と一緒に心から笑顔になれる時間を贈りたい。

そのための支援をいただきたいのです。

Hope & Wish
あなたの行動が夢と勇気となって、

たくさんの家族を支え、そして

あなた自身の心をも潤しつづけるのです。

日野原 重明

(最高顧問・医師)



撮影:上林徳寛さま



社団法人
難病の子どもとその家族へ夢を

あなたの前にある 「見逃せない現実」

それは遠い国のことではありません。今、この日本で、約20万人以上の子どもたちが長期療養を必要とする難病と闘っています。その中には、小児がんをはじめとする命の危険性を脅かす怖い病気も含まれます。世界にはさまざまな問題があります。しかし、あなたが手を伸ばせば届く距離にたくさんの子どもの辛い現実があるのです。そして難病と闘っているのは、子どもだけではなく、家族全員で闘っているのです。その数を含めると、約100万人が日々、闘っています。

私たちは、子どもたちから、病気から とても大切なことを教わりました



家族4人、全員一緒にヘアサロンでトップスタイリストにカットしていただきました。今までにない喜びと照れ?でした。

■ 急性リンパ性白血病と闘う女兒(8歳)の父親(36歳) 東京都在住
今、いちばん変わらなくてはならないのは、この子の“たった一人の父親”である私なのです。私自身がこの事実を正面から受け止め、逃げずに、笑ったり、もっと素直に怒ったりして、生きていられることの喜びを周囲に伝えなければなりません。これは、この子の白血病という病気が、私に教えてくれた本当の勇気なんです。



ワールドチャンピオンのネイリストさんにネイリングをしていただきました。家事や看病のため深爪だった私ですが、これからは爪を伸ばして綺麗にしてみようと思いました。

■ 急性リンパ性白血病と闘う女兒(15歳)の母親(51歳) 鹿児島県在住
家族離れ離れの入院闘病が1年間続きました。でもそこで、私たちはいろいろと学ぶことができました。例えば、人が生きていくうえで必要なものは、火、水、そして空気だけです。それ以外のものは、あったらよいけど、なくても生きていけるのです。贅沢を言ってしまったらきりがありません。それをすべて私は、自分の娘に教えてもらいました。娘が病気と闘っている姿を見て、初めてそう気がつきました。彼女から私への大切なプレゼントなのです。



雨の日でしたが、ディズニーランドに連れて行っていただきました。ボランティアのスタッフの方も一緒に、最高に楽しい一日でした。

■ 先天性骨形成不全症と闘う男児(3歳)の母親(32歳) 東京都在住
私たちは夫婦揃って十数年、車イスを使っている生活です。車イスに乗る彼に恋をして、結婚して、子どもにも恵まれました。だから、車イスに乗っていることは、私たちにとっては全く自然であって、当たり前なことなのです。時々、世間の人は、可哀そう、という眼で私たちを見るけれど、息子も含めて、この生活が私たちの“普通”なのです。

GIVE&TAKEではなく、GIVE&HAPPINESS というルールがあります



私たちは、1986年に米国フロリダ州に設立された、難病の子どもとその家族を支援する非営利慈善団体「ギブ・キッズ・ザ・ワールド」から正式に認証を受けた日本運営団体です。ギブ・キッズ・ザ・ワールドの創始者、ヘンリ・ランドワース氏の「人は与えられた中で生活をし、人に与えることによって真の生きる喜びを知るのです。」という想いを受け継ぎ、活動を進めています。私たちは、難病と闘っているご家族全員に、日々の闘病の毎日に夢と勇気を提供するために、“家族全員”をテーマに家族旅行を無償提供します。

私たちも一緒に参加しています。皆さんも 私たちと一緒にぜひ、参加してください

この活動を通して家族愛と生きる喜びを分かち合いたいです。

日野原 重明(最高顧問・財団法人聖路加国際病院 理事長)



この度、私は、先天性の病気や様々な障がいを持つ子どもとその家族に「生きる夢と勇気」を持たせてあげたいという一念からこの活動の最高顧問に就任しました。今この日本では、多くの方々が想像する以上の子どもとその家族が辛い現実と向き合っています。そして、そんな子どもと家族に夢や勇気を与えられるのは、他でもない日本にいる私たちなのではないかと思っています。「誰かが」ではなく「あなたが」、「いつか」ではなく「今すぐに」、ぜひとも手を差し伸べてください。ご協力を心よりお願いします。

この人間という生き物は、すごい生き物です。

細谷 亮太(評議委員・財団法人聖路加国際病院 副院長 小児総合医療センター長)



「病気になったのが家族の誰かじゃなくて、自分でよかったなと思う。見てるだけってつらいから。自分で、それはよかったと思う。自分はけっこう明るいというか、我慢強い、とよく言われるんです。だから、私で合っていたのかなって、病気になったのが。」ある難病の子が闘病中に話してくれた言葉です。人間という生き物は、子どもの頃から、こんなふうに考えることができるすごい生き物なのです。だからこそ、家族全員みんなで一緒に生きていかなければいけません。